

第10回 同志社大学「新ビジネス」フォーラムを開催

日時

2024年3月7日（木）

開催場所

同志社大学 東京サテライト・キャンパス

3月7日（木）に、第10回「新ビジネス」フォーラムを開催しました。ここ数年はコロナ禍によりオンラインや、現地開催とオンラインを併用したハイブリッド形式での開催でしたが、今年度は本フォーラムの「首都圏の方々との産学連携を中心とした関係を構築したい」という趣旨に立ち返り、5年ぶりに現地のみでの開催といたしました。

今回は、「科学とテクノロジーが導く今日の元気と明日の健康 ～健康に生きる、元気に生きる、達者に生きる～」と題し、若者から高齢者までの「カラダ」に焦点を当て、すべての世代が快活かつ快適に暮らせる社会の実現に向けた本学の最新の研究や技術について、理工学部より1名、生命医科学部より2名、スポーツ健康科学部より1名、同志社女子大学より1名の計5名の教員が登壇し、社会実装を目指したそれぞれの研究成果を紹介しました。

はじめに、スポーツ健康科学部の福岡義之教授より、「アスリートアイシングや熱中症に有効なマイクロ炭酸アイスバス」をテーマに、マイクロバブル炭酸ガスを溶解させた冷水によるアイシングは熱放散と血流による疲労回復が両立することを明らかにし、これをアスリートなどに適用することによって効率的なパフォーマンスの改善や熱中症予防が期待できることを実験結果も交えて紹介しました。

次に、生命医科学部・市川寛教授より、「超音波照射により生体の抗酸化能を高めて老化関連疾患を予防する」をテーマに、ラットやヒトへの軽微な超音波照射が生体の抗酸化能を著しく向上させる効果があることを示し、これを応用した超音波照射装置を健康器具として広く社会で普及させることにより、運動や機能性食品の効果と同等以上に健康保持や老化関連疾患の予防が期待できることを紹介しました。

続いて、同志社女子大学・長谷川昇教授と、理工学部・土屋誠司教授から、「AIによるビタミンDと認知機能の推定技術」をテーマに、認知症予防に必要な不可欠なビタミンDが現代人に不足している実態に触れ、体内のビタミンD値を把握することが認知症予防につながることを提言するとともに、生活行動と基礎的な生体情報からビタミンD値を推定し、さらにビタミンD値から認知機能を推定する技術、およびこの技術を実装したアプリケーションの開発状況について紹介しました。

最後に、生命医科学部・横川隆一教授より、「ロボットは人の運動をやさしく補助できるのか」をテーマに、要介護者を上手に補助するロボットの制御例を示すとともに、汎用性の点から介護者を支援するロボットの方が社会実装には近いとの考えが示され、今後の介護ロボットのあるべき姿、それを実現するための課題と展望について紹介しました。

講演終了後に実施した名刺交換会では、来場者の方との間で活発なディスカッションが繰り広げられ、この分野に対する関心の高さを実感できるフォーラムとなりました。

■当日の講演の内容は、YouTubeでもご覧いただけます。

〔講演 1〕
福岡先生



〔講演 2〕
市川先生



〔講演 3〕
長谷川先生・土屋先生



〔講演 4〕
横川先生



■当日の様子について



(左より、加藤将樹リエゾンオフィス所長、福岡義之教授、市川寛教授、長谷川昇教授、土屋誠司教授、横川隆一教授)



会場の様子



名刺交換会 兼 懇親会の様子